

森林税に係る県政モニターアンケートの検証について

森林政策課

1 概 要

県民は年間 140 万円に相当する森林の恩恵を享受しており、森林づくりの重要性を認識し、森林税の負担のみならず、主体的に森林づくりへ参加することは県民の責務（長野県森林づくり条例第 6 条）である。森林の機能や森林づくりの大切さ、森林税を活用した取組を普及啓発し、県民の森林づくりへの理解や関心を深め、森林づくりへの参加を促進する必要がある。森林税を活用し広く広報活動を展開している。今回、県民の森林づくりへの関心の度合いを評価するとともに、広報事業の効果検証を行い、今後の効果的な広報の展開に資するためすることを目的に、森林税に関するアンケート調査を県政モニターに対して実施した。

2 アンケート内容

次の 5 項目について 4 問を設定（平成 23 年度実施内容を継続比較するため設定）

- (1) 森林税の認知度 (2) 森林税の用途の認知度 (3) 森林税の取組を知った広報媒体
(4) 森林税の用途としての重要な取組 (5) 森林に対する関心度の変化

3 結果と分析

区分	H21 県政世論調査		H23 県民アンケート		H26 県民モニターアンケート	
	税の認知度	用途の認知度	税の認知度	用途の認知度	税の認知度	用途の認知度
長野県	74.3%	28.1%	75.8%	33.1%	79.3%	40.2%
(伸び率)	—	—	+1.5%	+5.0%	+3.5%	+7.1%
他県平均	40.0%	—	38.3%	—	—	—

○ 税の認知度は、平成 23 年度実施結果でも他県に比較して高い水準であったが、普及啓発の様々な工夫を凝らし実施した成果もあり、着実に上昇している結果となった。

○ 一方、用途の認知度はポイント的には上昇しているものの、まだ県民の約 4 割にとどまっております。これまで以上に県民に対して用途など丁寧な普及啓発が必要である。

区分	H21 県政世論調査		H23 県民アンケート		H26 県民モニターアンケート	
	税の認知度	用途の認知度	税の認知度	用途の認知度	税の認知度	用途の認知度
全体	74.3%	28.1%	75.8%	33.1%	79.3%	40.2%
男性	78.8%	34.1%	84.6%	39.5%	83.7%	47.8%
女性	69.4%	22.0%	67.2%	26.8%	72.9%	29.4%
20～30代	54.7%	14.3%	48.9%	16.6%	62.0%	28.4%
40代～	79.5%	31.9%	80.9%	36.2%	82.5%	42.6%

○ コンビニ等へのリーフレット設置やプロダ・ツイッター等ターゲットを絞った広報の取組により、女性及び 20～30 代ともに森林税やその用途の認知度は上昇している。

○ しかし、森林税及び用途の認知度は男性と女性、30 代以下と 40 代以上で有意な差が依然としてあり、特に、30 代以下の約 4 割が森林税を認知していない。

○ 「女性」及び「30 代以下」の県民及び森林づくりを進めるため「森林所有者」をターゲットとして、さらに新たな手法も検討する中で、より効果的な広報を展開する必要がある。

区分	H21 県政世論調査		H23 県民アンケート		H26 県民モニターアンケート	
	森林に対する関心度の変化	森林に対する関心度の割合(%)	森林に対する関心度の変化(%)	森林に対する関心度の割合(%)	森林に対する関心度の変化(%)	森林に対する関心度の割合(%)
長野県	—	53.3%	—	53.3%	—	61.8%
(伸び率)	—	—	—	—	—	+8.5%

4 成果目標

森林税の取組により森林への関心が高まった者の割合 70.0%以上 (H29)

※平成 26 年度目標：61.6%

平成26年度

第2回 県政モニターアンケート

 長野県

1 調査の目的・項目

県政の課題について「県政モニターアンケート調査」を実施しました。今回の調査においては下記の3項目について19問を設定しました。

- (1) 主要国首脳会議（G8サミット）について
平成28年に開催地として立候補している主要国首脳会議（G8サミット）の認知度等について調査
- (2) 「信州の山」の取組について
本県の貴重な資源である「山」に感謝し、守り育てながら活かしていく機運の醸成を図るため今年度に制定した「信州 山の日」に関する認知度等について調査
また、森林の恩恵を受けている県民が、みんなで森林づくりを支える仕組みとして、平成20年度から導入している、長野県森林づくり県民税について、県民への認知度等について調査
- (3) 「長野県強靱化計画」について
「長野県強靱化計画」の策定にあたって、計画の基本的な方向性の参考とするため、大規模自然災害に対する意識等について調査

2 調査の方法

- (1) 調査地域：長野県全域
- (2) 調査対象：県政モニター 1, 206人
- (3) 調査方法：郵送又はインターネット
- (4) 調査期間：平成26年12月16日（火）から平成27年1月5日（月）

3 回収結果

回収数（率） 811人（67.2%）

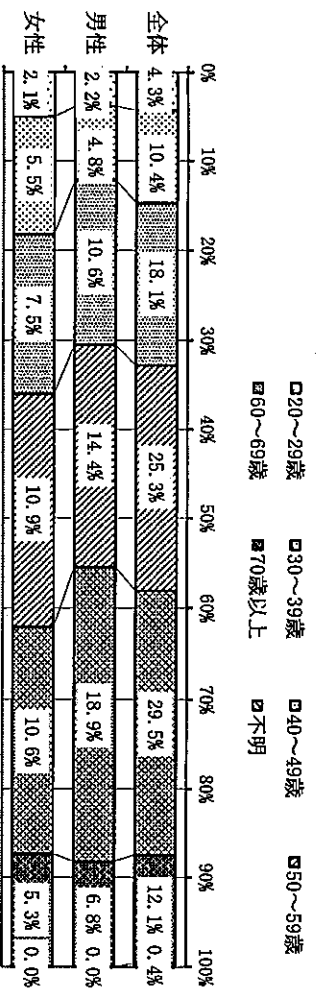
【回答方法別】	全体回答率	(回答方法内訳)		
		郵送	インターネット	
総数	811	559	252	
	1,206	721	485	
	67.2%	77.5%	52.0%	
	58	19	39	
	96	22	74	
公募	60.4%	86.4%	52.7%	
	753	540	213	
	1,110	699	411	
無作為	67.8%	77.3%	51.8%	

(上段 回答者数：中段 対象者数：下段 割合)

4 回答状況

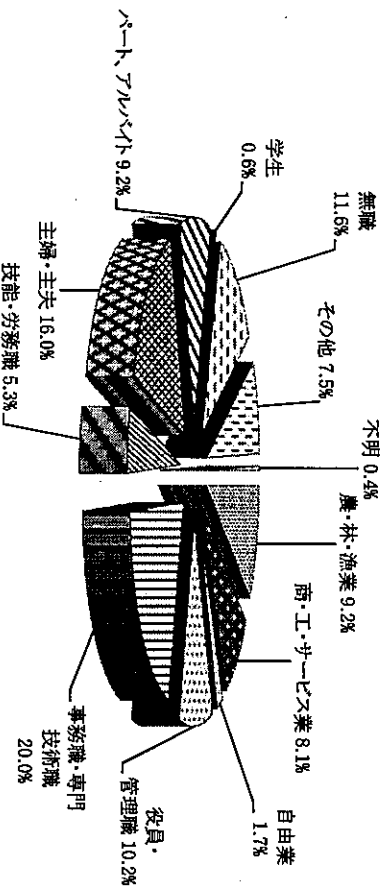
【男女別・年代別】	総数	(上段 回答者数：下段 割合)						
		20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	不明
総数	811	35	84	147	205	239	98	3
	100.0%	4.3%	10.4%	18.1%	25.3%	29.5%	12.1%	0.4%
男性	468	18	39	86	117	153	55	-
	57.7%	2.2%	4.8%	10.6%	14.4%	18.9%	6.8%	-
女性	340	17	45	61	88	86	43	-
	41.9%	2.1%	5.5%	7.5%	10.9%	10.6%	5.3%	-
不明	3	-	-	-	-	-	-	3
	0.4%	-	-	-	-	-	-	0.4%

※ 割合(%)はすべて、回答総数(n=811)に対する割合



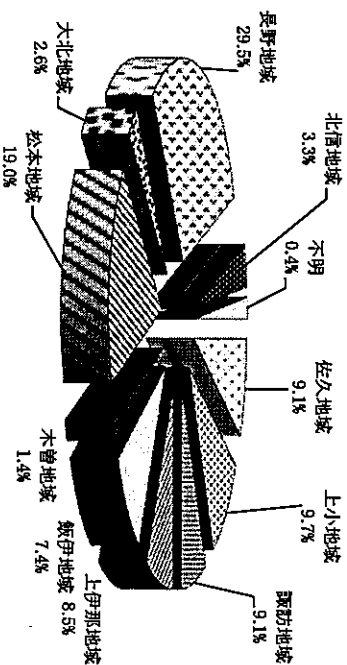
【職業別】

	県政モニター登録者数		回答者数		回答率
	人数	割合	人数	割合	
農・林・漁業	100	8.3%	75	9.2%	75.0%
商・工・サービス業	113	9.4%	66	8.1%	58.4%
自由業	28	2.3%	14	1.7%	50.0%
役員・管理職	137	11.4%	83	10.2%	60.6%
事務職・専門技術職	261	21.6%	162	20.0%	62.1%
技能・労務職	69	5.7%	43	5.3%	62.3%
主婦・主夫	174	14.4%	130	16.0%	74.7%
パート、アルバイト	121	10.0%	75	9.2%	62.0%
学生	7	0.6%	5	0.6%	71.4%
無職	109	9.0%	94	11.6%	86.2%
その他	87	7.2%	61	7.5%	70.1%
不明	-	-	3	0.4%	-
合計	1,206	100.0%	811	100.0%	67.2%



【地域別】

	県政モニター登録者数		回答者数		回答率
	人数	割合	人数	割合	
佐久地域	116	9.6%	74	9.1%	63.8%
上小地域	118	9.8%	79	9.7%	66.9%
諏訪地域	132	10.9%	74	9.1%	56.1%
上伊那地域	103	8.5%	69	8.5%	67.0%
飯伊地域	91	7.5%	60	7.4%	65.9%
木曾地域	14	1.2%	11	1.4%	78.6%
松本地域	234	19.4%	154	19.0%	65.8%
大北地域	32	2.7%	21	2.6%	65.6%
長野地域	322	26.7%	239	29.5%	74.2%
北信地域	44	3.6%	27	3.3%	61.4%
不明	-	-	3	0.4%	-
合計	1,206	100.0%	811	100.0%	67.2%



5 その他

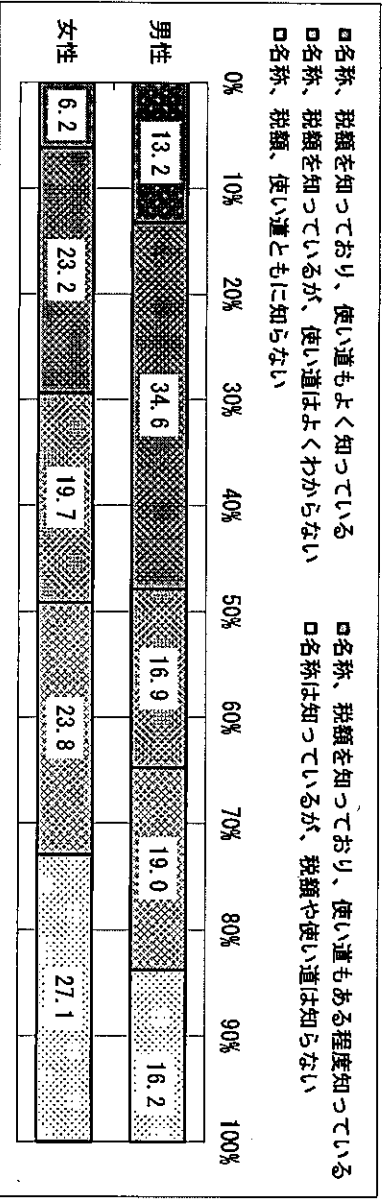
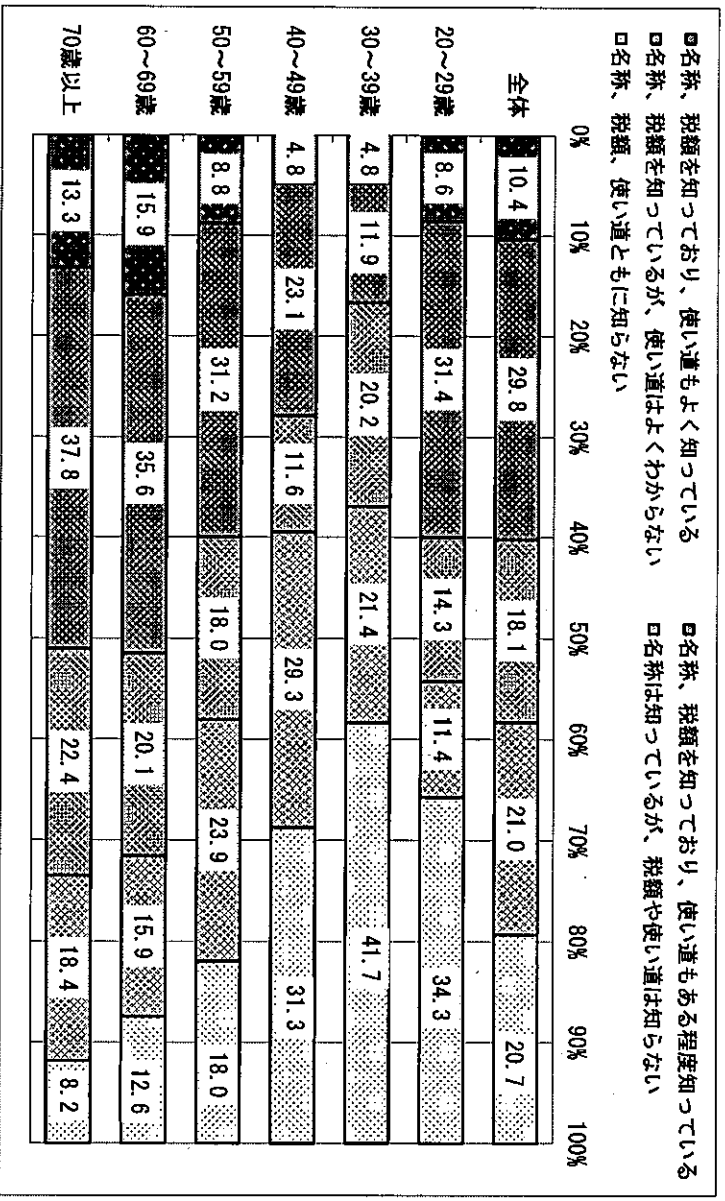
- (1) 調査結果の割合は、百分率で表記した。百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表示している。したがって、割合の合計が100%とならない場合がある。なお、調査の設問には単数回答と複数回答があり、複数回答の場合には割合の合計が100%を上回ることがある。
- (2) 集計結果において、「無回答」とは、当該設問に対する回答（選択）が無いものを示す。
※回答方法が1択の設問に対して、複数選択されているなど、正常な回答として扱えないものも「無回答」とする。
- (3) 「Ⅱ結果の内容」中、設問の表記は、便宜上補足（選択肢の番号など）を加えている場合がある。また、設問の選択肢で文字数が多いものについては、本文や図表中で便宜上短く省略している場合がある。
- (4) 「4 回答状況」で「不明」とあるものは、アンケート回答の際に県政モニターID番号等の記入がなく、回答者の属性（性別、年代等）が不明なものを示している。

＜森林税の認知度＞
 名称、税額に加え、使い道を知っている方が約4割、名称のみを知っていると認知度は約8割

問7 長野県では、平成20年度から森林税を活用し、現在までの6年間(H20～H25)で約2万5千ha(諏訪湖18.5個分)の里山の森林整備を進めました。
 あなたは、以前から、森林税の名称、税額、使い道についてご存じでしたか。次の中から1つお選びください。

	n= 811	回答数 (人)	割合 (%)
名称、税額を知っており、使い道もよく知っている	84	84	10.4%
名称、税額を知っており、使い道もある程度知っている	242	242	29.8%
名称、税額を知っているが、使い道はよくわからない	147	147	18.1%
名称は知っているが、税額や使い道は知らない	170	170	21.0%
名称、税額、使い道ともに知らない	168	168	20.7%

●「名称、税額を知っており、使い道もある程度知っている」が29.8%と最も高く、次いで「名称は知っているが、使い道は知らない」(21%)、「名称、税額、使い道ともに知らない」(20.7%)となっている。

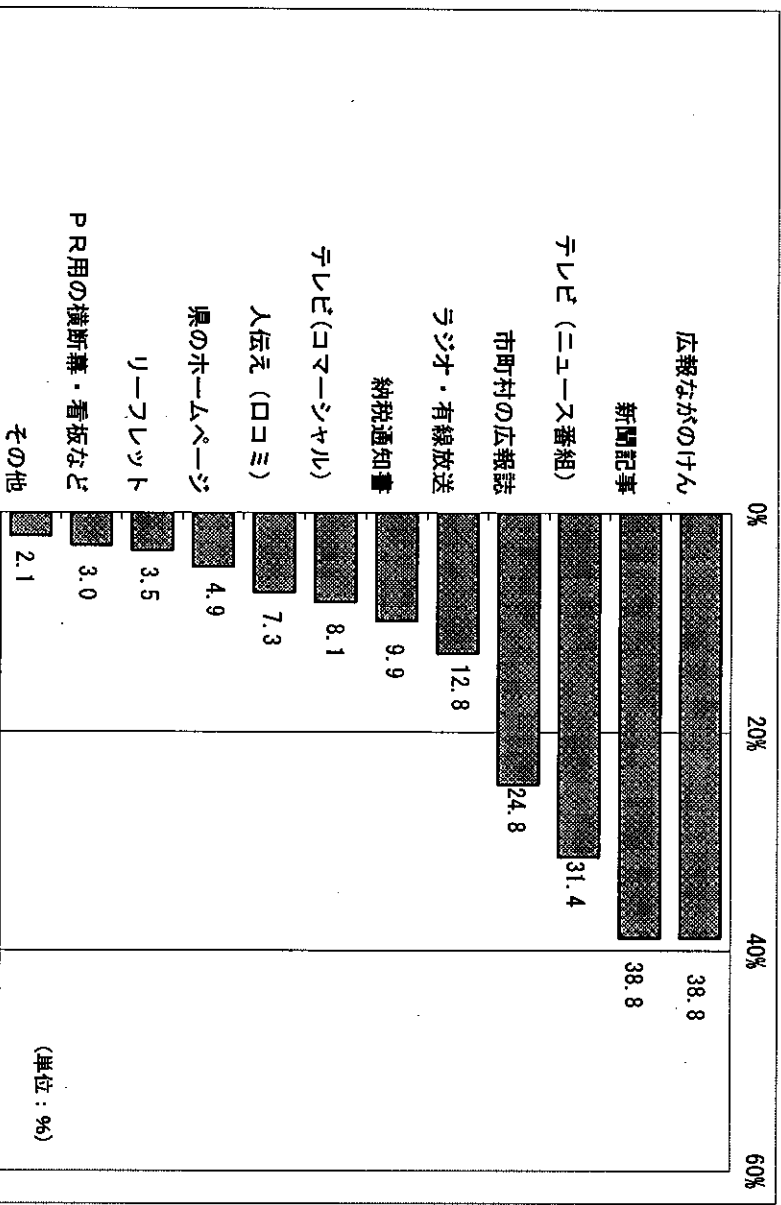


＜森林税の名称、税額、使い道等を知った広報媒体＞
 「広報ながのけんJ」、「新聞記事」が4割弱で最も高く、次いで「テレビ(ニュース番組)」が3割超

問8 問7で①から④を選ばれた方へ
 あなたは、森林税の名称、税額、使い道などをどのようにお知りになりましたか。これまでに森林税について見たり聞いたりしたことがある項目を、次の中から全てお選びください。

	回答数 (人)	割合 (%)
広報ながのけん	315	38.8
新聞記事	315	38.8
テレビ(ニュース番組)	255	31.4
市町村の広報誌	201	24.8
ラジオ・有線放送	104	12.8
納税通知書	80	9.9
テレビ(コマーシャル)	66	8.1
人伝え(口コミ)	59	7.3
県のホームページ	40	4.9
リーフレット	28	3.5
PR用の横断幕・看板など	24	3.0
その他	17	2.1

● 広報ながのけん及び新聞記事が38.8%で最も高く、次いで「テレビ(ニュース番組)」(31.4%)となっている。



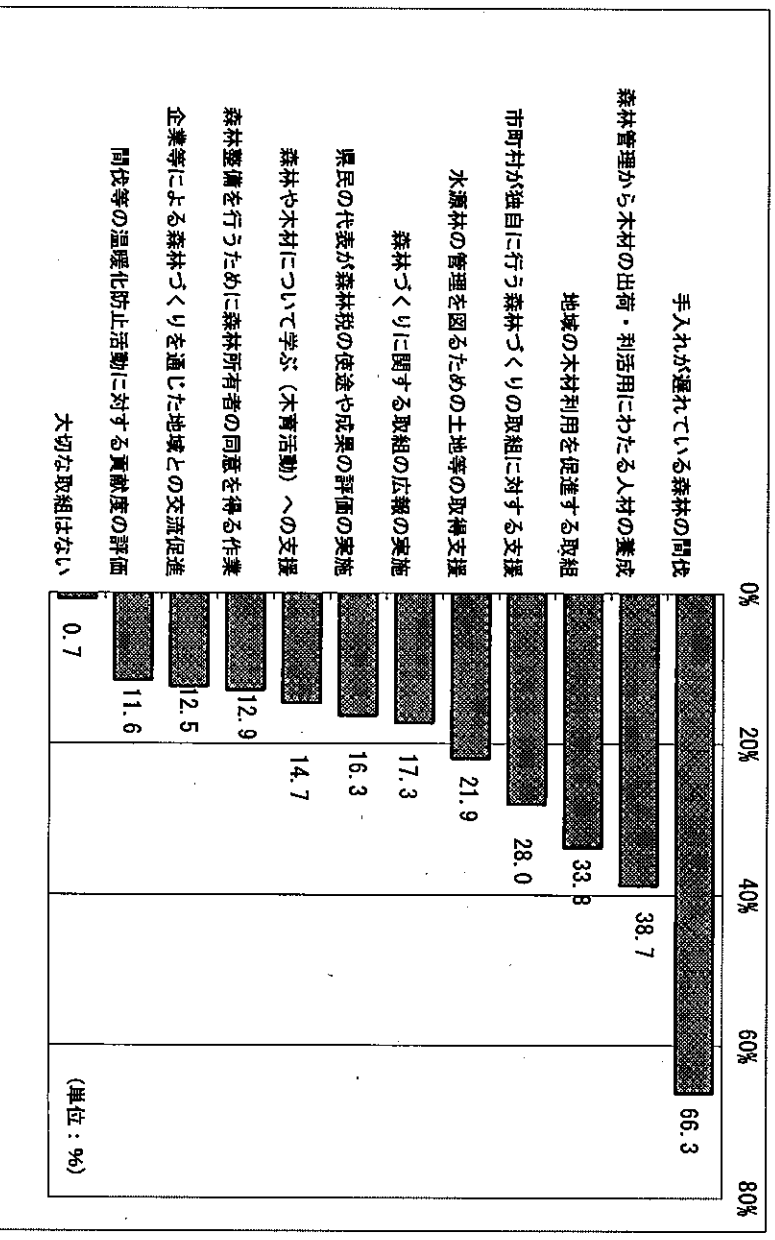
＜森林税の使途として重要な取組＞

「手入れが遅れている森林の間伐」が約7割、「森林管理から木材の出荷・利活用にわたる知識と技術を有する人材の養成」が約4割、「地域の木材利用を促進する取組」が3割超

問9 森林税は、現在、以下のような森林づくりに関する取組に活用されています。あなたが大切だと思う取組を、次の中から3つまでお選びください。

	n = 811	回答数 (人)	割合 (%)
手入れが遅れている森林の間伐	538	66.3	
森林管理から木材の出荷・利活用にわたる知識と技術を有する人材の養成	314	38.7	
地域の木材利用を促進する取組	274	33.8	
市町村が独自に行う森林づくりの取組に対する支援	227	28.0	
市町村が森林内の水源林地及び水源林の管理を図るための土地等の取得支援	178	21.9	
森林づくりに関する取組を理解していただくための広報の実施	140	17.3	
県民の代表が森林税の使途や成果の評価を実施すること	132	16.3	
森林や木材について学ぶ(木育活動)への支援	119	14.7	
森林整備を行うために必要な森林所有者の同意を得る作業	105	12.9	
企業等の社会貢献活動による森林づくりを通じた地域との交流促進	101	12.5	
間伐等の温暖化防止活動に対する貢献度を評価する取組	94	11.6	
大切な取組はない	6	0.7	

●手入れが遅れている森林の間伐が66.3%で最も高く、次いで「人材育成」(38.7)、「地域材利用」(33.8%)となっている。



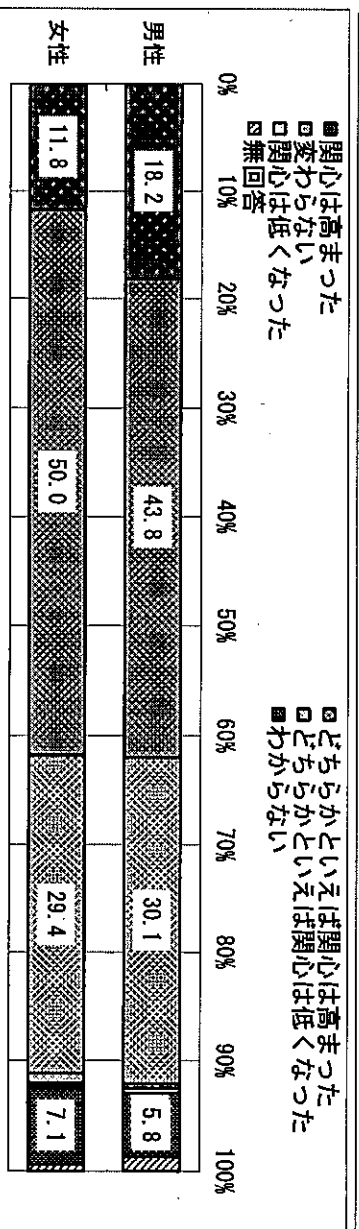
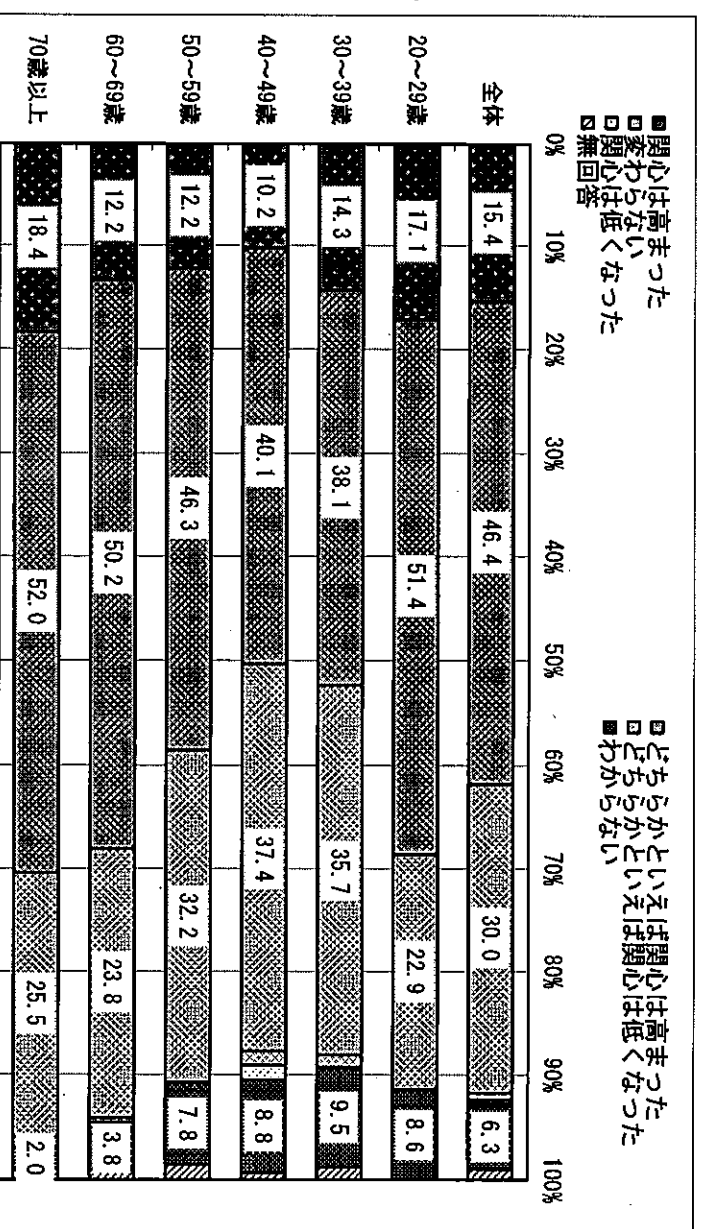
＜森林税を活用した取組を通じた「森林」に対する関心の変化＞
 「関心が高まった」と「どちらかといえば関心が高まった」を合わせて6割超、年齢が高い方の「関心が高まった」割合が高い傾向

問10 あなたは、森林税を活用した様々な取組を通じて、長野県の森林に対する関心は変化しましたか。あてはまるものを選んでください。(〇は1つ)

	回答数 (人)	割合 (%)
関心は高まった	125	15.4%
どちらかといえば関心は高まった	376	46.4%
変わらない	243	30.0%
どちらかといえば関心は低くなった	5	0.6%
関心は低くなった	3	0.4%
わからない	51	6.3%
無回答	8	1.0%

n = 811

●「どちらかといえば関心は高まった」が46.4%と最も高く、次いで「変わらない」が30.0%となっている。



《「信州の山」の取組について》

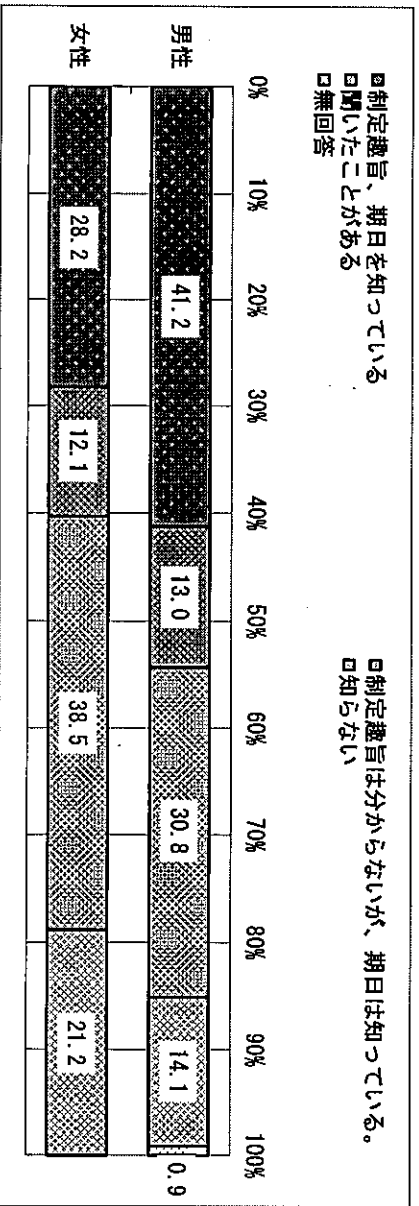
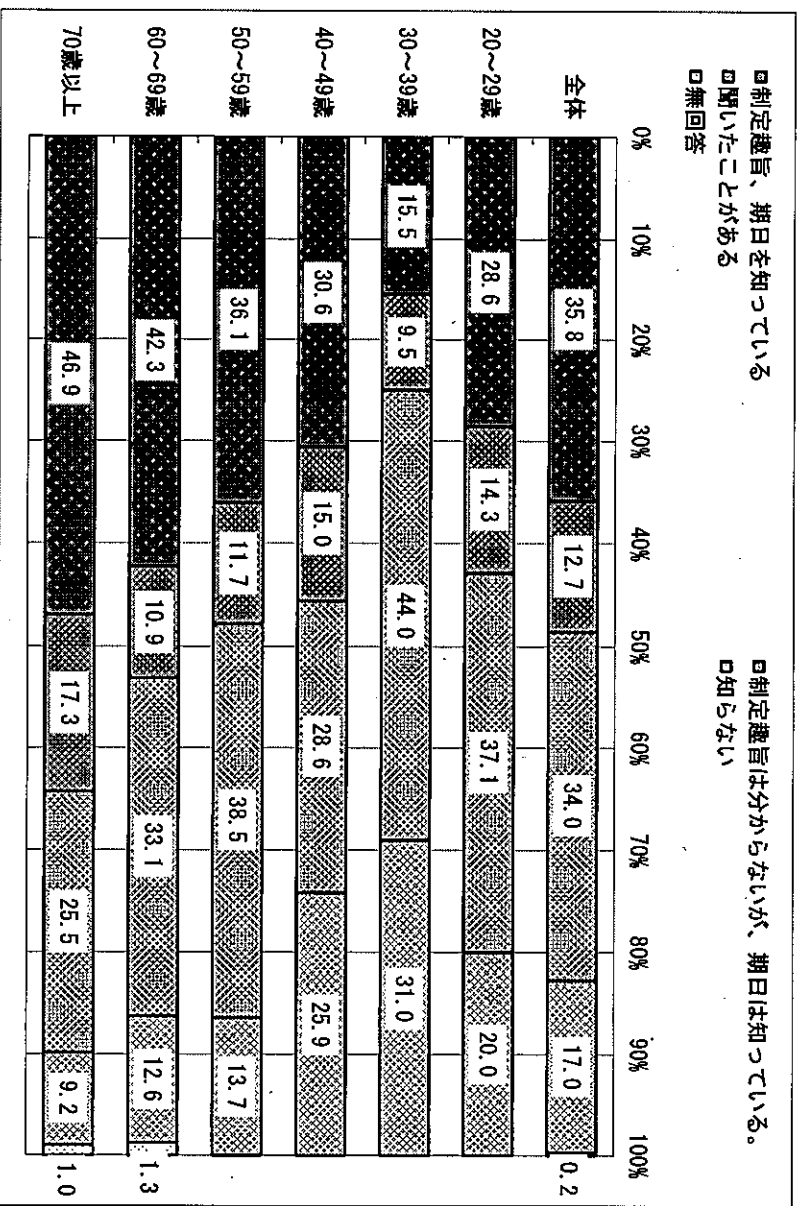
＜「信州の山」の認知度＞

「制定趣旨・期日を知っている」と「期日を知っている」と「聞いたことがある」を合わせて8割超

問3 「信州の山」の制定を知っていますか。あてはまるものを選んでください。(〇は1つ)

	回答数 (人)	割合 (%)
制定趣旨、期日を知っている。	n = 811 290	35.8%
制定趣旨は分からないが、期日は知っている。	103	12.7%
聞いたことがある。	276	34.0%
知らない。	138	17.0%
無回答	2	0.2%

●「制定趣旨、期日を知っている」が35.8%と最も高く、次いで「聞いたことがある」(34.0%)、「知らない」(17.0%)となっている。

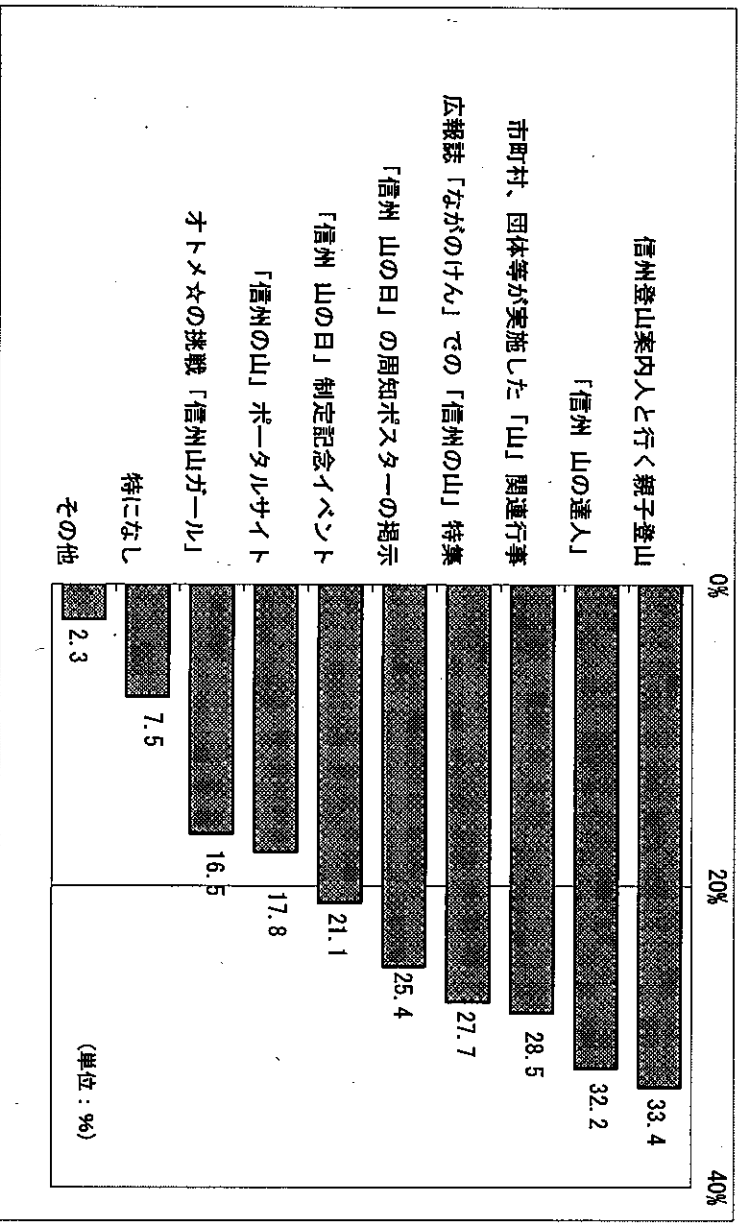


＜平成26年に実施した「山」関連事業の評価＞
 「信州登山案内人と行く親子登山」、「信州山の達人」、「市町村、団体等が実施した関連行事」が約3割

問4 問3で①～③に○をした方は、今年実施した「山」関連事業で良いと思う取組を選んでください。
 (○はいくつでも)

	n = 811	回答数 (人)	割合 (%)
信州登山案内人と行く親子登山		271	33.4
信州の山に関連したきらりと光る活動を行っている方を募集した 「信州山の達人」		261	32.2
市町村、団体等が実施した「信州山の日」関連行事		231	28.5
広報誌「ながのけん」夏号(6月配布)での「信州の山」特集記事の掲載		225	27.7
ユビエニエンススター等での「信州山の日」の周知ポスターの掲示		206	25.4
7月27日に安曇野市で実施した「信州山の日」制定記念イベント		171	21.1
「信州の山」ポータルサイト(県公式ホームページ)やイベントカレンダーによる 山関連行事等の情報発信		144	17.8
信州応援アトム「オトメ☆コーポレーション」が「山」に関連した様々な体験を 通じて山の魅力をテレビやブログで発信する【オトメ☆の挑戦「信州山ガール」】		134	16.5
特になし		61	7.5
その他		19	2.3

●信州登山案内人と行く親子登山が33.4%で最も高く、次いで「信州山の達人」(32.2%)、「市町村、団体等が実施した「山」関連行事」(28.5%)となっている。

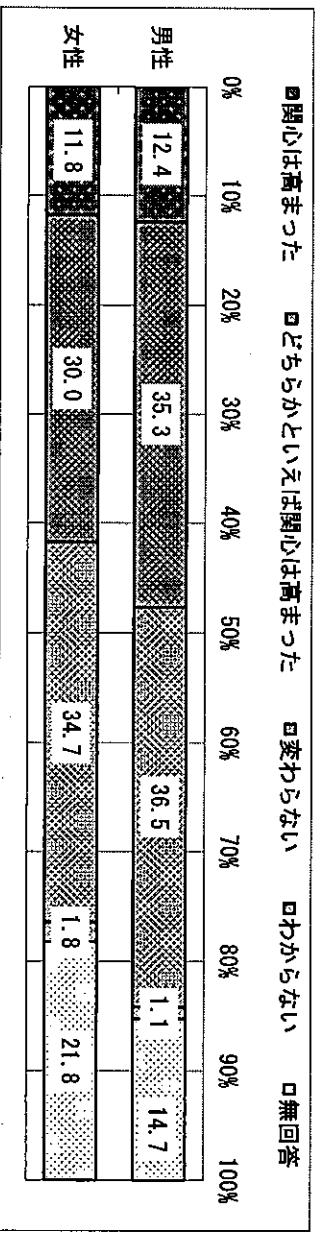
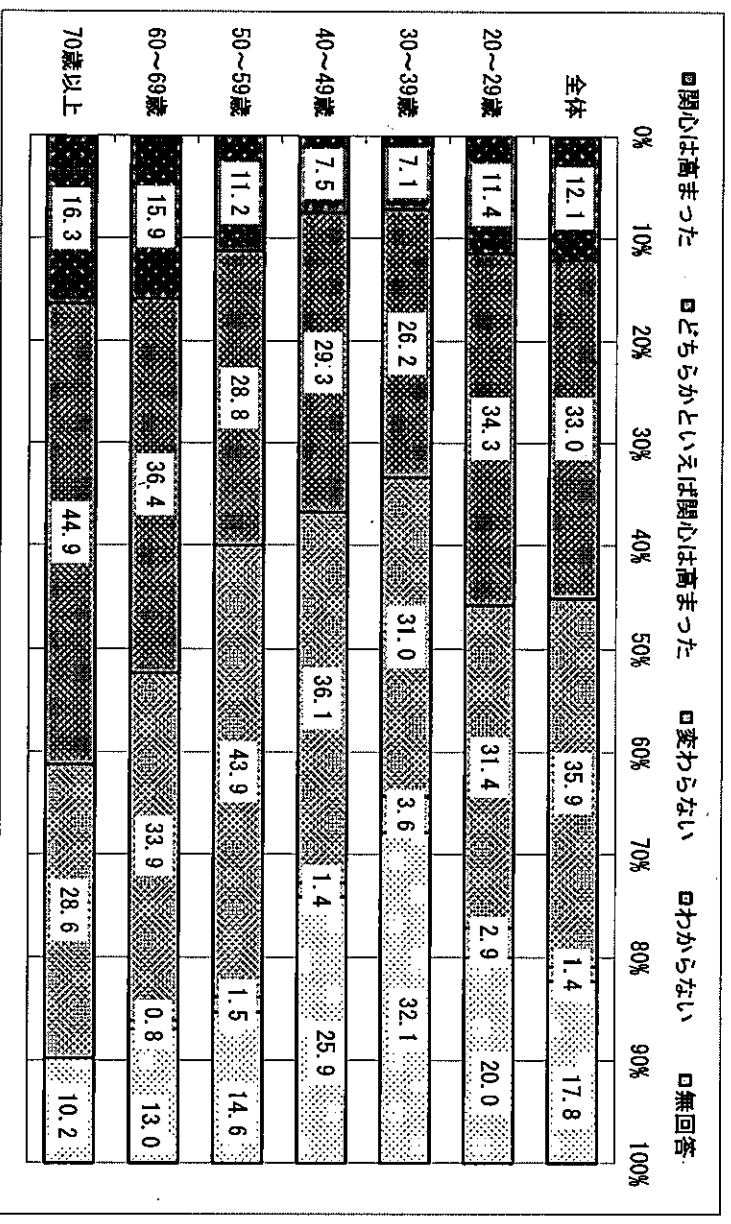


＜「信州 山の日」の取組による「山」に関する関心の変化＞
 「関心が高まった」と「どちらかといえば関心が高まった」を合せて約5割、年齢が高い方の「関心が高まった」割合が高い傾向

問5 「信州 山の日」の取組を通じて、あなたの「山」に関する関心は変化しましたか。あてはまるものを選んでください。(○は1つ)

	n= 811	回答数 (人)	割合 (%)
関心は高まった		98	12.1%
どちらかといえば関心は高まった		268	33.0%
変わらない		291	35.9%
わからない		11	1.4%
無回答		144	17.8%

●「変わらない」が35.9%と最も高く、次いで「どちらかといえば関心は高まった」が33.0%となっている。



＜「信州の山」の魅力を高め、活用するための大切な取組＞
 「森林(里山)の整備」が5割を超え、「子どもたちをはじめ多くの人たちが「山」に親しみ、学ぶ機会づくり」、「登山の安全対策」が約4割

問6 今後、「信州の山」の魅力を高め、より一層活用していくために、あなたが大切だと思う取組を選んでください。(〇は3つまで、ただし、⑩を選んだ場合は、他の項目は選ばないでください。)

	回答数 (人)	割合 (%)
森林(里山)整備	433	53.4
子どもたちをはじめ多くの人たちが「山」に親しみ、学ぶ機会づくり	363	44.8
登山の安全対策	338	41.7
登山道・山小屋の整備	242	29.8
魅力ある山岳高原の観光地づくり	235	29.0
「信州の山」に関する情報発信	231	28.5
野生鳥獣による被害への対策	217	26.8
山岳高原への誘客対策	69	8.5
その他	37	4.6
特になし	11	1.4

●森林(里山)整備が53.4%で最も高く、次いで「山」に親しみ、学ぶ機会づくり(44.8%)、「登山の安全対策」(41.7%)となっている。

